

C-6

タタール語における代名詞化した限定詞との一致について

菱山湧人

タタール語の「代名詞化した限定詞」が主語である節、およびこれらの属格形が従属部である所有名詞句では、三人称単数一致のみならず一二人称複数一致も起こりうる。発表者はこの現象を解明すべくコーパス調査を行った。結果、以下の①と②が明らかになった。

① 定形節では特に ‘all of {us / you}’ を意味するものが主語である場合に一二人称複数一致を示す例が多い。

② 所有名詞句は定形節に比べ、一二人称複数一致を示す例が押し並べて少ない。

発表者は①から、一二人称複数一致は「意味的一致 (semantic agreement) 」(Corbett 2006) であると考えられる。なぜなら、一二人称複数一致は意味的に一二人称複数であると解釈されやすいものが主語である場合に起こりやすいと言えるためである。さらに②から、名詞句では節に比べて意味的一致が起こりにくいことが示唆される。これは、所有名詞句と類似の構造を持つ名詞節では、一二人称複数一致が名詞句に比べよく見られることから確かめられる。

0. はじめに

タタール語 (チュルク諸語キプチャク語群) の節および名詞句では人称・数の一致が見られる。例えば、定形節では (1), (2) のように主要部動詞に主語の人称・数と一致する述語人称標識が現れる (三人称はゼロ)。所有名詞句では (3), (4) のように主要部名詞に従属部の人称・数と一致する所属人称標識が現れる (一二人称は随意的)。

(1) Bez čiq-ti-q. (2) Ul čiq-ti-Ø.
1PL go.out-PAST-1PL 3SG go.out-PAST-3SG
「我々は出た。」 「彼／彼女は出た。」

(3) bez-neŋ küz-lär(-ebez) (4) anıŋ küz-lär-e
1PL-GEN eye-PL(-1PL.POSS) 3SG.GEN eye-PL-3SG.POSS
「我々の目」 「彼／彼女の目」

しかし、*bari-biz* [all-1PL.POSS] ‘all of us’, *küb-egez* [many-2PL.POSS] ‘many of you’, *ike-bez* [two-1PL.POSS] ‘two of us’ などの「代名詞化した限定詞 (pronominalized determiners)¹」が主語である節や、これらの属格形が従属部である所有名詞句では、三人称単数一致のみならず一二人称複数一致も起こりうる (定形節

¹ トルコ語に関する先行研究である Göksel and Kerslake (2005: 120) の用語。限定詞に所属人称接辞が付いて代名詞的に機能する *hiçbir-imiz* [none-1PL.POSS] ‘none of us’, *bazı-lar-ımız* [some-PL-2PL.POSS] ‘some of you’ のような語を指す。以下、本発表で扱うタタール語の類似形式も「代名詞化した限定詞」と呼ぶ。

の例は (5)、所有名詞句の例は (6) を見よ。

- (5) **Ike-bez** **čiq-ti{-Ø / -q}**. (6) **küb-ebez-neq** **küz-lär{-e / (-ebez)}**
two-1PL.POSS go.out-PAST{-3SG / -1PL} many-1PL.POSS-GEN eye-PL{-3SG.POSS / (-1PL.POSS)}
「私たちのうち二人は出た。」 「私たちのうち多くの目」

管見の限りでは、タタール語に関する先行研究でこの現象は記述されていない。トルコ語（チュルク諸語オグズ語群）では節において同様の現象が見られ、一部の先行研究に記述がある（第1節で後述）。しかし、トルコ語の先行研究の記述を援用しても、タタール語における代名詞化した限定詞との一致は説明できない。発表者はこの現象を説明するため、コーパスを用いた定量的調査を行った。調査の結果、以下の①と②が明らかになった。

- ① 定形節では特に ‘all of {us / you}’ を意味するものが主語である場合に一二人称複数一致を示す例が多い。
- ② 所有名詞句は定形節に比べ、一二人称複数一致を示す例が押し並べて少ない。

発表者は①から、一二人称複数一致は「意味的一致 (semantic agreement) 」(Corbett 2006) であると考え（第3節で後述）。なぜなら、一二人称複数一致は意味的に一二人称複数であると解釈されやすいものが主語である場合に起こりやすいと言えるためである。さらに②から、名詞句では節に比べて意味的一致が起こりにくいことが示唆される。これは、所有名詞句と類似の構造を持つ名詞節では、一二人称複数一致が名詞句に比べよく見られることから確かめられる。

本発表の構成は次の通りである。まず第1節で先行研究の記述を要約し、第2節で調査方法と調査結果、第3節で考察、第4節で今後の課題を述べる。

なお、特にことわりのない限り外国語文献の翻訳、例文・図表番号、ラテン文字転写、グロス、日本語訳、文字飾り等は発表者による。

1. 先行研究

タタール語に関する先行研究で、代名詞化した限定詞との一致について記述したものは管見の限りでは見当たらない。本節では、タタール語と同じくチュルク諸語に属し、研究の進んでいるトルコ語に関する先行研究を取り上げる。1.1節で Göksel and Kerslake (2005)、1.2節で Aydın (2009) の記述をまとめ、1.3節で問題提起を行う。

1.1. Göksel and Kerslake (2005)

Göksel and Kerslake (2005: 120) によると、トルコ語では包括的な集団を指す *hep-imiz* [all-1PL.POSS] ‘all of us / *hep-iniz* [all-2PL.POSS] ‘all of you’ が主語の場合、述語における一二人称複数標示は義務的である (7) が、それ以外のものが主語である場合は基本的に随意的である (8) という。

- (7) **Hep-imiz** tatil-de deniz kıyı-sın-a gid-iyor-uz.
 all-1PL.POSS holiday-LOC sea coast-3SG.POSS-DAT go-PRES-1PL
 「私たちは全員、休暇に海岸に行く。」

- (8) **Hiçbir-imiz** bugün sokağ-a çık-ma-dı(-k).
 not.any-1PL.POSS today street-DAT go.out-NEG(-1PL)
 「私たちの誰も、今日は外出しなかった。」

1.2. Aydın (2009)

Aydın (2009: 99) は代名詞の空範疇 *pro* を仮定し、これが主語部分数量詞 (subject partitive quantifier) を含む主語名詞句内に留まっている場合は (三人称) 単数一致が起き (9a)、そこから時制句の指定部に移動している場合は (一二人称) 複数一致が起こる (9b) と説明している。

- (9) a. [TP [NP *pro* kaç-ımız] on-u haklı bul-uyor-Ø]?
 how.many-2PL.NOM he-ACC right find-PRES-3SG
 b. [TP *pro*_i [TP [NP t_i kaç-ımız] on-u haklı bul-uyor-sunuz]]?
 how.many-2PL.NOM he-ACC right find-PRES-2PL
 ‘How many of you think that he is right?’

その証拠として Aydın (2009: 99) は、三人称単数一致では主格主語が許容されず (10a)、一二人称複数一致では属格主語が許容されない (10b) ことを挙げている。

- (10) a. [TP [NPsiz-in/*siz kaç-ımız] on-u haklı bul-uyor-Ø]?
 you-GEN/*NOM how.many-2PL he-ACC right find-PRES-3SG
 b. [TP siz_i/*siz-in_i [TP [NP t_i kaç-ımız] on-u haklı bul-uyor-sunuz]]?
 you.NOM/*GEN how.many-2PL he-ACC right find-PRES-2PL
 ‘How many of you think that he is right?’

1.3. 問題提起

Göksel and Kerslake (2005) はトルコ語において、主語が包括的な集団を指すものである場合は述語における一二人称複数標示は義務的であるとしている。タタール語でも包括的な集団を指すものが主語である場合、一二人称複数標識が現れることが多いものの、(11) のように現れない例も見られる。

- (11) Anıj kem-leg-e-n bar-ibiz bel-ä-Ø.
 3SG.GEN who-CNMLZ-3SG.POSS-ACC all-1PL.POSS know-PRES-3SG
 「彼が誰であるかを私たちは皆知っている。」

Aydın (2009: 99) は代名詞の空範疇 *pro* を仮定し、これが代名詞化した限定詞を含む主語名詞句内に留まっている場合は三人称単数一致、そこから時制句の指定部に移動している場合は一二人称複数一致が起こると説明している (9)。その証拠として、三人称単数一致では主格主語が許容されず、一二人称複数一致では属格主語が許容されないことを挙げている (10)。しかし、タタール語の例を観察すると (12) のように、属格人称代名詞が現れているにも関わらず二人称複数一致をしている例や、逆に (13) のように、主格人称代名詞が現れているにも関わらず三人称単数一致をしている例が見られる。

(12) **Sez-neñ küb-egöz ijtımayıy tormış-ta qatnaş-a-sız.**
 2PL-GEN many-2PL.POSS social life-LOC participate-PRES-2PL
 「あなたたちの多くは社会生活に参加している。」

(13) **Sez qaysi-yız bel-ä-Ø bu yeget-ne?**
 2PL which-2PL.POSS know-PRES-3SG this young.man-ACC
 「あなたたちはどなたが知っていますか、この青年を？」

さらに、タタール語では所有名詞句でも一二人称複数一致が起こりうるため、*pro* を用いた統語的な説明は成り立たない。

以上で概観したように、トルコ語の先行研究の記述を援用しても、タタール語における代名詞化した限定詞との一致は説明できない。よって発表者はコーパスを用いた定量的な調査を行い、この現象を説明することを試みる。

2. 調査

本節では 2.1 節で調査方法、2.2 節で調査結果について述べる。

2.1. 調査方法

タタール語のオンラインコーパス *Corpus of Written Tatar*² を用いて定量的調査を行った。調査対象は、*bari*, *böten*, *hämmä* ‘all’, *härber* ‘each’, *qaysi* ‘which’, *küp* ‘many’ に一人称複数もしくは二人称複数の所属人称接辞が付いたものが主語である定形節（述部が動詞の現在形または過去形のもの）³ および、これらの属格形が従属部として用いられている所有名詞句である。これらを以下の 1) と 2) の手順で抽出し集計した。

1) 定形節は、一つ目の検索窓に調査対象の形式を、単語間の距離を 1-5 語として二つ目の検索窓に現

² 総語数約 3 億 5600 万語で、マスメディアの記事が 60%、文学作品が 35%、学術論文が 5%を占める。

³ タタール語の述語人称標識のうち、主なものに I 型と II 型がある。調査では、I 型が付く述語の代表として動詞の現在形、II 型が付く述語の代表として動詞の過去形を選んだ。

在形を意味するタグ <pres> もしくは過去形を意味するタグ <ifi> を入力し検索する。他方、所有名詞句は、一つ目の検索窓に調査対象の形式の属格形を入力し検索する。

2) ヒットした例文をエクセルに貼り付け、ゴミ⁴を手作業で除去しながら、例を 50 例ずつ集め、三人称単数一致を示す例と一二人称複数一致を示す例の数を数える。

2.2. 調査結果

以下の表 1, 2 に調査結果を示す (数の多い方を太字で示す)。

表 1: 調査結果 (一人称複数形)

		定形節 (現在形)		定形節 (過去形)		所有名詞句	
		3SG (Ø)	1PL	3SG (Ø)	1PL	3SG	1PL / Ø
<i>bari-biz</i>	'all of us'	8	42	0	50	45	5
<i>böten-ebez</i>		14	36	2	48	48	2
<i>hämmä-bez</i>		23	27	6	44	47	3
<i>küb-ebez</i>	'many of us'	36	14	35	15	45	5
<i>härber-ebez</i>	'each of us'	43	7	23	27	49	1
<i>qaysi-biz</i>	'which of us'	46	4	22	28	48	2

表 2: 調査結果 (二人称複数形)⁵

		定形節 (現在形)		定形節 (過去形)		所有名詞句	
		3SG (Ø)	1PL	3SG (Ø)	1PL	3SG	1PL / Ø
<i>bari-yiz</i>	'all of you'	7	43	12	38	44	6
<i>qaysi-yiz</i>	'which of you'	50	0	47	3	49	1

調査の結果、以下の①と②が明らかとなった。

- ① 定形節では特に 'all of {us / you}' を意味するものが主語である場合に一二人称複数一致を示す例が多い。
- ② 所有名詞句は定形節に比べ、一二人称複数一致を示す例が押し並べて少ない。

3. 考察

発表者は、一二人称複数一致が「意味的一致 (semantic agreement) 」(Corbett 2006) であると考えている。Corbett (2006: 155) によると、コントローラーの形に応じた一致が統語的一致 (例: *the committee has decided*) であるのに対し、コントローラーの意味に応じた一致は意味的一致 (例: *the committee have decided*) であるという。調査結果①から、一二人称複数一致は意味的に一二人称複数であると解釈されやすいものが主語である場合に起こりやすいと言え、これは一二人称複数一致を意味的一致であるとすることで説明できる。一二人称複数一致が意味的一致であることは、以下の (14) のような例があるこ

⁴ 一致のコントローラーが代名詞化した限定詞であるものを調査対象とするため、人称代名詞を持つ例も除外した。

⁵ 3つの項目それぞれにつき 50 例ずつ例が集まった形式に関する調査結果のみを掲載した。

とによっても確かめられる。

(14) Manaraya dürtäw kerdek,

ike-bez **çiq-ti-q,** **ike-bez** **anda** **qal-di-Ø.**
two-1PL.POSS go.out-PAST-1PL two-1PL.POSS there remain -PAST-3SG

「我々は塔に四人で入った、(私を含む)二人は出て、(他の)二人はそこに残った。」

上の等位節の例では、左の節の述語「出た」には一人称複数の人称標識が現れているが、右の節の述語「残った」には現れていない。タタール語母語話者のコンサルタント⁶によると、話者は塔に「残った」二人ではなく、塔から「出た」二人に含まれるという。これは、代名詞化した限定詞が指示対象に話者(もしくは聞き手)を含む場合、意味的に複数人称代名詞に相当するものと解釈され、結果として意味的一致が起りやすいことを示している。

さらに調査結果②から、名詞句では節に比べて意味的一致が起りにくいことが示唆される。このことは、所有名詞句と類似の構造を持つ名詞節 (15) で、一二人称複数一致が所有名詞句や関係節⁷+主要部名詞からなる名詞句 (16) に比べよく見られることから確かめられる。

(15) [NC **Bari-biz-niq** aña boril-yan-ibiz]-ni da kür-miy-Ø.
all-1PL.POSS-GEN 3SG.DAT look.back-PTCP.PAST-1PL.POSS-ACC also look-NEG.PRES-3SG

「私たち皆が彼の方に振り返ったことも、彼は見ない。」

(16) [NP [RC **böten-ebez-nej** yarat-qan] jür-i]
all-1PL.POSS-GEN like-PTCP.PAST song-3SG.POSS

「私たち皆が好きな歌」

‘all of us’ を意味する 3 つの形式を持つ関係節+主要部名詞からなる名詞句と名詞節を対象に追加のコーパス調査を行った結果、一人称複数で一致している例は、関係節+主要部名詞からなる名詞句で 6 例中 0 例、名詞節では 22 例中 8 例であった。本発表におけるコーパス調査の結果に基づけば、タタール語における代名詞化した限定詞との意味的一致は、起りにくい領域から順に名詞句、非定形節、定形節であるといえる (図 1)。

名詞句 > 非定形節 > 定形節

図 1: タタール語の一致領域における代名詞化した限定詞との意味的一致の可能性

名詞句では節に比べて意味的一致が起りにくいことが、タタール語と類似の構造を持つ言語に共通の

⁶ 1973 年生まれでタタールスタン共和国カザン出身のタタール語母語話者の男性 R. Y. 氏。

⁷ タタール語の関係節はギャップ型であり、主要部名詞に關係節主語の人称・数と一致する所属人称接辞がつく。

傾向であるかどうかは、今後の研究が待たれる。Aydm (2009: 94) によると、トルコ語の所有名詞句では (一二人称) 複数一致は容認されず、関係節や名詞節では容認度が低い。Corbett (1979) の一致階層 (図 2) によると、通言語的に意味的一致の可能性は、一致のターゲットが修飾語 (attributive) である場合に比べ、述語 (predicate) である場合により高い。

attributive > predicate > relative pronoun > personal pronoun

図 2 : 一致階層 (Corbett 1979)

修飾語が名詞句内一致で、述語が名詞句外一致であることから、ここだけを見ると名詞句内では名詞句外よりも意味的一致が起こりにくいという一般化ができそうである。しかし、関係代名詞 (relative pronoun) は名詞句内一致であるため、名詞句内か名詞句外かによる線引きはできない (Corbett 2006: 228)。

4. 今後の課題

今後は用例数を増やすほか、今回扱わなかった代名詞化した限定詞や、動詞の現在形と過去形以外を述部とする定形節についても調査を行う必要がある。

略号一覧

1, 2, 3		1, 2, 3 人称	PAST	past	過去
ACC	accusative	対格	PL	plural	複数
CNMLZ	clause nominalizer	節名詞化	POSS	possessive	所有
DAT	dative	与格	PRES	present	現在
GEN	genitive	属格	PTCP	participle	形動詞
LOC	locative	位格	RC	relative clause	関係節
NC	noun clause	名詞節	SG	singular	単数
NEG	negative	否定	TP	time phrase	時制句
NOM	nominative	主格	VN	verbal noun	動名詞
NP	noun phrase	名詞句	-		接辞境界

参考文献

- Aydm, Ö. (2009) Agreement with partitive quantifiers in Turkish. *Essays on Turkish Linguistics: Proceedings of the 14th International Conference on Turkish Linguistics, August 6-8, 2008 (Turcologica)*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Corbett, G. G. (1979) The agreement hierarchy. *Journal of Linguistics*, 15. 203-224.
- Corbett, G. G. (2006) *Agreement*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Göksel, A. and C. Kerslake (2005) *Turkish A Comprehensive Grammar*, New York: Routledge.

URL

Corpus of Written Tatar (http://corpus.tatfolk.ru/index_tt.php) [最終閲覧日 : 2019/10/1]